

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース (2015年10月13日18時00分)

イ・ドンピル農食品部長官、全南地域AI推進状況のチェック及び ジャーナリストとの懇談会開催

出典URL:

http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155447297§ion_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2015&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N

(機械翻訳等に基づく仮訳)

イ・ドンピル農林畜産食品部長官は10月13日(火)、全羅南道羅州市役所を訪問し、全南地域で推進されているAI防疫の実態を点検した。

○羅州市は、9月14日に康津郡と共にあひる農場でAI(H5N8)が最初に確認された地域であり、以降、全羅南道ではこれまでに、3つの市・郡(羅州・康津・潭陽)で5件のAIが検出された。

○全南地域で推進されている、伝統市場内の家きん販売所、係留場、家畜仲介業者等の発生農家と疫学関連がある人や施設についての追跡検査及び防疫管理などの推進状況を点検した。

イ・ドンピル長官は、AIの追加発生を防止するために、防疫当局は種あひる農場の一斉検査など防疫推進に総力を傾け、畜産農家と生産者団体が責任を持って主導的に防疫管理を実施するシステムを作っていく計画であると明らかにした。

○渡り鳥など野鳥によるAI侵入を遮断するために、家きん飼育農家が野鳥の出入を防止するためのネットの設置を早急に完了できるように、渡り鳥の飛来地近くの農家に対し、指導や広報を実施するよう要請した。

また、イ・ドンピル長官は光州・全南地域の編集(プレス)局長などジャーナリストとの懇談会を介して、AI発生と防疫体系改善、干ばつ対策などの主要農政懸案についてコンセンサスを形成する場を持った。